

第4回特別支援教育を考えるセミナー 人間関係論的アプローチ研究会  
特別支援教育における人間関係論的アプローチ

私と人間関係論的アプローチ

第4回人間関係論的アプローチ セミナーの開催にあたって

特別支援教育を考えるセミナーは今年で4回目を迎えます。昨年は340名もの方々に会場に集まっていただきました。今年も多くの方々のお力添えをいただきながら大阪の地で開催いたします。

皆様方の熱意によって支えられてきたセミナーですが、一つの区切りとして今回を最終回といたします。今後の在り方については、実行委員のメンバーでゆっくり考えていきたいと思っております。また何らかのご案内をさせていただくことになるかもしれません。

これまでのセミナーで私たちは、関係の中で子どもを理解しようとする態度、子どもの障害特性にとらわれすぎないかかわり方、その工夫、子どもの内面に寄り添える支援のあり方、を伝えてきました。第1回のテーマは、「切る保育・教育ではなくつなぐ保育・教育の提案」、第2回は「子どもを見つめる目 自分を見つめる目 その間にあるもの」、第3回目は「ハート&ハード 方法に思いをのせて」、そして今年は「私と人間関係論的アプローチ」です。さまざまな子どもとの出会い、かかわりの中から何を学ぶか、そして人が人とつながることの意味をご一緒に考えたいと思っております。

ご多忙の日々の中、短いひとときではありますが、ホッと一息ついて、子どもや自分自身のことを見つめられる場となりますことを願っております。

実行委員長 堅田 利明

- ◆ 日 時 平成21年10月24日(土) 13:10 ~ 17:30  
(受付 12:30 ~ )
- ◆ 場 所 大阪市総合医療センター さくらホール
- ◆ 参加費 無料
- ◆ 提案者 提案者、順番等は当日変更することがございます。

提案1 「先生となら僕できるもん」

岡山県津山市立西小学校 吉田 英生

3年生になってもひとつの漢字も読み書きできない学習障害がある子どもが暮らしている「今」にあった「たくさんの小さな壁や隙間」を埋める実践の中にあつた人間関係をお話します。能力や特性からくる「苦手さ」を埋めるためにできること、子どもの気持ちと友だちや大人の見目の間にある「段差」を小さくするためにできること、難しさがある「今」と子どもや家族の「これから」の間にある不安な思いに希望の光を差すためにできること、それらは全て「たくさんの小さな隙間」を少しずつ繋ぐささやかな教育的実践でできることがたくさんあるのではないかと思います。そんな「間繋」実践の一端をお話したいと思っております。

## 提案2 「乳幼児の現場で大切にされてきたこと」

国立特別支援教育総合研究所 久保山 茂樹

現場で必死に子どもとかかわっている先生方から沢山のことを学んで来ました。「保育所には保育料0円の親子も5万円の親子もいるの。それだけ幅があることがあたりまえなの。子どものタイプも幅があるのが前提なの」「毎日大変ですよ。でも、毎日1回やっぱりあの子かわいい！って思えるんですよ」「誰かに認められ、自信を持つ経験が、やがて家を出て社会とかかわろうとする気持ちにつながると思うのです」。こうした先生方の実践への自分なりの解釈と、少しばかりの自分の実践を織り交ぜ、乳幼児の現場であたり前に行われていることの重要性を再確認してみたいと思います。

## 提案3 「発達相談の場では出会う子ども達」

発達支援センターくさびえ 永井 智樹

相談室では、たくさん子ども達と出会っています。そして、その子ども達とのつながりで実に多くの親御さん、先生方ともお会いしてきました。ほとんどが子どもさんの行動などで親御さんや先生方（大人）が困って相談に来られるのですが、実は子どもさん自身の思いや願いが実現できず、むしろ誤解された結果として起きていることが多いのです。その思いを探る手掛かりとして発達検査や知能検査を用いていますが、子ども達が検査課題に取り組む姿や、保護者の方との面談などから私が学んできたことをご紹介します。

## 提案4 「子どもとかかわるということ」

山口県周南市立勝間小学校 古谷 充

学校や教室の雰囲気や乱す子どもが増えています。教育現場では、とにかく混乱を広げないために、子どもの行動のコントロールを優先することが求められます。通級教室の役割も、学級の中で落ち着いて活動できるように学習の補充をしたり、ソーシャルスキルを教えたりすることに傾いているところもあります。「人間関係論」の考え方では、まず「子どものあるがままを、まず受け入れる」ことから子どもとのかかわりが始まると思っています。問題点に目をつぶる訳ではなく、問題点も含めて子どもを受け入れるということです。ただ、「対応を統一しないと子どもが混乱する」「甘やかすと勘違いする」などの問題も現実には否定できません。そのような現場の（自分の）混乱を整理してみたいと思っています。

## 提案5 「子どもとの出会い 学び そしてつながり」

大阪市立総合医療センター 堅田 利明

「自分でどんな人間なんだろうか」こうした自己観察力は、他者とのかかわりによって形成されてきます。他者とは、親をはじめ教え導く立場にある者から、クラス、他に所属している集団の場では出会う様々な人たち。人間関係を通して自分を見つめる目が育まれてきます。得意なこと、できること。才能や能力ばかりを差すのではなく、得意でないことや困ったことであっても、それを解決していくための道のりから学べることは多々あります。特にそれが、人のためや、人の役に立っているんだという確信が持てたとき、自己評価は高まっていきます。私たちは子ども達からいっぱい学ばせてもらっているという恩恵を見つめなおし、それをことばにし、他者へとつないでいく一人になりたいと思っています。

### ◇ お申し込み

今回、お申し込みは必要ありません。席は先着順とさせていただきます。なお会場の広さの都合（330席）により、お座りいただけなくなるかもしれません。なにとぞご了承ください。

★セミナーSTAFF（50音順）

青山 新吾（岡山県教育庁指導課）	石原 忍（岡山市白ゆり保育園）
片岡 一公（岡山県総合教育センター）	堅田 利明（大阪市立総合医療センター）
久保山 茂樹（国立特別支援教育総合研究所）	
永井 智樹（広島県福山市草笛学園発達支援センターくさぶえ）	
古谷 充（山口県周南市立勝間小学校）	吉田 英生（岡山県津山市立西小学校）

<アクセス>

●地下鉄谷町線  
「都島」駅下車  
2番出口西へ  
約3分

●JR大阪環状線  
「桜ノ宮」駅下車  
東口を出て北へ  
約7分

